

# 私立大学研究ブランディング事業

## 30年度の進捗状況

学校法人番号	041002	学校法人名	東北学院		
大学名	東北学院大学				
事業名	東北における神学・人文学の研究拠点の整備事業				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	10,074人
参画組織	ヨーロッパ文化総合研究所、キリスト教文化研究所、東北学院史資料センター、東北文化研究所				
事業概要	震災という未曾有の物質文化の破壊を経験した東北において、本学内にあるキリスト教中世的文化財を軸に、時代と地域による人間中心の人文学(人間学)研究に併せて、中世にさかのぼる神中心の神学に基礎を置く総合的な神学と人文学の研究拠点を確立する。受肉を根拠に物質文化を肯定する神学を土台として、キリスト教によって地域を人的知的に支える大学という本学が目指している大学像を可視化し、更に強固なものとする。				
①事業目的	<p>本学に関連する文化財を神学・人文学の見地から研究することによって、キリスト教物質文化の基礎が神学にあることを確認し、「東北における神学・人文学の研究拠点」を整備構築することが、本事業の目的である。</p> <p>本研究は本学の文化財の調査研究をきっかけに、神学を人文学の基礎として位置付け、物質文化を再考するとともに、東北の地域性を、ポスト・モダンの価値をもつ文化資源と考える。すなわち神学と人文学の総合的観点から物質文化を支える拠点を本学に整備し、キリスト教が成立したヨーロッパ中世の復興である礼拝堂とステンドグラスを公開することで中世キリスト教において成立した物質文化の根拠を確認する。それは同時に東北仙台の地域性を文化資源として開発することに寄与する。</p>				
②30年度の実施目標及び実施計画	<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 本事業の成果等について、本学ホームページへの掲載、公開講演会の開催及び書籍の出版等により公表した普及に努める。</li> <li>② ランカスター神学校や米国国立文書館に保存されている東北学院関連資料の調査、本院所蔵の映像フィルムの4K化など、東北学院に関連する歴史的資料の収集保存に努める。</li> <li>③ ステンドグラスに関する調査研究など、本事業のテーマに関連する研究を推進する。</li> <li>④ 学生のためのワークショップを実施する。</li> <li>⑤ 大学礼拝を市民に公開し、その中で音楽の役割を充実する。</li> </ol> <p>【実施計画】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 前年度に実施したステンドグラス修復の報告書作成、修復過程の動画公開や水曜通信の発行などを通じて、本事業の活動についての広報活動を行う。また、本事業の研究テーマに基づいた公開講演会やシンポジウムの開催や仙台コミュニティラジオとの連携、研究成果をまとめた書籍の刊行などを通じて本事業の成果を発信する。</li> <li>② ランカスター神学校や米国国立公文書館に保存されている東北学院関係資料の調査を行い、これらの調査の成果について、シンポジウム等を開催し報告する。また、本院史資料センター所蔵の1926年ごろに撮影された映像フィルムの一部を4K化し歴史的資料として保存する。</li> <li>③ ラファージ研究の継続及びHBB工場の作例調査を、現地で調査を行い、ステンドグラスに関する研究を推進する。またオクスフォード大学等の資料調査を行い、本事業の研究テーマの一つである「帝国と地域主義」の研究を推進する。</li> <li>④ 本事業の主要目的である人材育成のため、東北学院並びに東北の文化・宗教的遺産を学ぶとともに、実際に東北の切支丹遺跡を巡る、学生のためのワークショップを実施する。</li> <li>⑤ 水曜礼拝を毎月第3水曜日に開催し、礼拝後の音楽による賛美を充実する。</li> </ol>				

**③30年度の事業成果**

① ステンドグラス修復に関して、報告書の作成及び修復過程の動画をホームページで公開した。また、ホームカミングデーにおいて記念講和を行った。

② 本事業の研究成果を公表しまたは普及するため、公開講演会やシンポジウム等を16回開催し、延べ1,240名が参加した。また、ラジオ番組「学院大ジブンRadio」を2019年1月～3月にかけて12回放送した。

③ これまでの研究成果を「福音とは何か 聖書の福音から福音主義へ」を教文館より出版した(2018年9月)。

④ ランカスター神学校でのドイツ改革派資料の調査を行い、主に写真資料の収集とともに、17箱に収蔵されている409項目をデジタル化した。さらに、米国国立文書館に保存されているGHQ文書を中心とした東北学院関係資料の調査を行った。これらの調査の成果については、報告会及びシンポジウムを開催し公表した。また、本院史資料センター所蔵の1926年ごろに撮影された映像フィルム9巻のうち4巻を修復し4K化した。

⑤ 学生ワークショップ「東北における宗教的観光資源の可能性－世界から見た東北観光－」を実施し、9名の学生が参加した。また、6名の学生が参加して秋田県湯沢市にある院内銀山などを訪れ、宗教観光資源などについてディスカッションすることができた。

⑥ 毎月一回開催(8月と3月を除く第三水曜日に開催)した「水曜礼拝」には、市民を中心として延べ488名の参加があり、大きな反響を得ている。

**④30年度の自己点検・評価及び外部評価の結果**

(自己点検・評価)  
平成30年度の事業は順調に進めることができた。特に、公開講演会や研究会、シンポジウム等の開催にあっては、学内のみならず学外からの参加者も多く、地域の中で本学が果たすべき役割を再認識できたのは大きな成果といえる。また、平成29年度ランカスター神学校の訪問を契機として、平成30年度には同校校長を迎えての公開講演会開催や同校において資料調査を開始できたこと、本学と同校との間で国際交流協定の締結を行ったことは大きな成果である。

さらに、平成28、29年度の外部評価で指摘された、部門間の相互連携、人材育成、アメリカの改革派キリスト教の研究、世界各地におけるキリスト教の土着化を追跡しその史的意義を考究、などについても平成30年度に実施することができた。

(外部評価)外部評価委員会:令和元年5月13日開催

①各研究推進部門の特徴を生かしながら世界理解に基づく本邦、アジア、欧米などの共存相生に向けて協働し調和のとれた事業となっている。

②地元ラジオ局の番組出演や活動の全国紙ならびに地方紙における紹介など本事業をメディアに発信する努力がうかがえる。また自らも「水曜通信」やホームページでの発信をつうじて事業の成果を社会に還元しようとしている点は評価できる。

③「人文学研究推進部門」「地域研究推進部門」「神学研究推進部門」の三部門が協力して研究を進めていることは、立体的で総合的な研究活動という点で高く評価できる。

④国内外の研究者を多く集め、活発にシンポジウム等が行われている。せっかくの機会なので、学生向けの授業と連動させるなどして、学生教育のためにも利用できるのではないかと。

⑤「水曜礼拝」は地域の市民との交流の眼目であり、その他の講話、フォーラム、シンポジウムと一体となって地域社会に多大なキリスト教などへの関心呼び起こしている。

⑥平成31年度でブランディング事業が終了することを考えると、今年度の計画は研究成果の公表、資料公開、今後の組織整備などにもっと重点を置くべきかもしれない。

⑦部門間の融合もしくは相互乗り入れについては、意識した対応を最終年度にも期待したい。

⑧本年度が事業の最終年度となるため、総括的な取り組みとして3部門を横断するシンポジウム等の開催をしてもいいように思われる。

指摘・提案のあった項目については、本事業推進に係る事業計画委員会及び研究推進調整委員会において実施に向けた検討を行う。

**⑤30年度の補助金の使用状況**

<b>【平成30年度事業経費】</b>	<b>○合計 16,279千円</b>
・消耗品費 461千円	・賃借料 580千円
・図書費 2,057千円	・旅費(国内) 882千円
・委託費 1,653千円	・旅費(国外) 4,043千円
・通信運搬費 175千円	・人件費・謝金 3,553千円
・印刷製本費 2,735千円	・その他 140千円

**【事業経費の管理体制】**

・事業経費の使用に当たっては、本学の本事業推進に係る全体計画を策定する事業計画委員会において、事業計画に沿った適正な用途を確認している。